

まえがき

埼玉県衛生研究所は、埼玉県における衛生行政の科学的・技術的中核機関として、各種検査、調査研究、感染症などの疫学情報の収集・解析・提供、専門研修の企画・開催等を行っています。平成 26 年 4 月 1 日、庁舎の老朽化に伴い県南のさいたま市から県のほぼ中央にある吉見町へ移転し、今年で 3 年目を迎えました。

平成 27 年度は、韓国における中東呼吸器症候群（MERS）の集団感染や、ブラジルをはじめ中南米地域等におけるジカウイルス感染症の流行や小頭症の問題が発生し、その都度、臨機応変な検査対応等に追われたところです。状況の変化を敏感に察知しながら、果たすべき役割を確実に遂行していく必要性を強く感じます。

一方、遺伝子解析や微量化学物質の検出など、衛生研究所に求められる検査技術は年々、高度化・多様化しており、時代の要請に応えられるよう新しい検査技術の導入や後進の育成に努めているところです。

また、当所では、感染症疫学情報部門を専担組織として設けており、埼玉県の感染症情報センターとして地域における感染症の発生状況について分析し、県民や関係機関に必要な情報を迅速に提供するほか、分子疫学的手法を用いた O157 等腸管出血性大腸菌感染症 diffuse outbreak の原因究明のための疫学調査事業、県内における予防接種完了率全数調査事業等を継続的に実施しています。

本号は、移転後、2 年目となる平成 27 年度について事業実績等をまとめたものです。各担当の業務実績や調査研究の実施状況（特集 4 編，研究事業報告 4 編，調査研究 4 編，資料 15 編，雑誌等の紹介 5 編，口演等の紹介 50 編）を収録致しましたので、ご覧いただき、忌憚のないご意見等をいただければ幸いです。

平成 28 年 12 月

埼玉県衛生研究所

所 長 本多 麻夫